

子どもの虐待防止オレンジリボンキャンペーン活動

ちばこどもおうえん広場 2022



第19回千葉県子どもの人権懇話会

聴いてほしい・・・つらいこと・困っていること・不安なこと
～子ども・若者の今を聴き受け止めたい～

11月6日（日）14:00～16:00 千葉市きぼーる 3F 子ども交流館 参加者 100人

スケジュール

★報告

千葉県の子ども・若者の状況

渋沢 茂さん（千葉県中核地域生活支援センター連絡協議会会長）

★子ども・若者によるトークセッション

児童養護施設の卒園者 4名

車椅子ユーザーの高校生 1名

ファシリテーター 朝比奈ミカさん（中核地域生活支援センターがじゅまるセンター長）

子ども支援者 池口 豊さん（児童養護施設子山ホーム 職業指導員）

★ 同世代の若者によるダンスパフォーマンス 1名

★ 報告 千葉県の子ども・若者の状況

渋沢 茂さん

（千葉県社会福祉士会相談役／千葉県中核地域生活支援センター連絡協議会会長／長生ひなた所長）

○「不登校 初の1万人超」～県内学校21年度調査～（10月28日付 千葉日報）

- ・「いじめ」5万件超、前年度より3割増加
- ・生徒間、教師への暴力行為の発生件数、小学校で過去最多
- ・児童、生徒の不登校数、初の1万人超 10年前と比べて小学校で4倍近く、中学校で2倍近く増加。→中学校40人学級の場合、1クラス2人は不登校

▽

- ・学校の状況がひどくなっている？
- ・「行かなくていいよ」と言ってくれる大人の増加？
- ・コロナウイルスによる影響？（休校による生活リズムの乱れ、学校活動の制限により登校意欲が低下）

問題点は・・・「不登校」自体が問題なのではない。それにより、社会経験が少なくなってしまうことが問題。支援のある小中と違い、高校に行くと、特にそこからドロップアウトしてしまうと、若者へ届けられる社会資源がとても少ない。

「子どもにとっての1年、2年はとても大きい」

○中核地域生活支援センターについて

- ・H16年に策定された「千葉県地域福祉支援計画」に基づく千葉県単独の事業。
- ・子ども、障がい者、高齢者を含めた全ての地域住民を対象とした地域生活支援の民間の拠点としての位置づけ。24時間、365日体制。保健所圏域ごとに13か所設置。*政令指定都市（千葉市）と中核市（船橋市・柏市）を除く。

中核地域生活支援センターの事業は

「相談支援」

「権利擁護」

「地域総合コーディネート」

「市町村バックアップ」

付き合うこと

闘うこと

コミュニティをつくること

つながること



・対象を限定しないので入口で断らない！

・権限を持っていないので関係性が勝負！

ソーシャルワーカーとしての矜持を持って

○千葉県の子どもの貧困の現状を考える～「令和元年度子どもの生活実態調査」～

*県内に住む小学5年生及び中学2年生とその保護者を対象

📁千葉県HP「千葉県子どもの貧困対策推進計画（R2年度～R6年度）」で検索

「困窮層」「周辺層」「一般層」に区分すると、「困窮層」は全体の7%、「周辺層」は10%強。

- ・「困窮層」は二人親よりひとり親の割合が高い。
- ・授業理解度は低い傾向。
- ・小学生の80%以上がゲームを所有。中学生の8割がスマホを所有。一般層との差異はない。
- *水道は止まっているがスマホは使用している状況も。良い悪いではなく、大事にするものが変わってきている。
- ・朝食の欠食率が高い。自宅も含めて、ほっとできる居場所が少ない。
- ・自己肯定感（頑張れば報われる、自分には価値がある、自分が好き、等々）が子ども、保護者共に低い。

そうした困難を抱えた家庭が「中核地域生活支援センター」に相談した割合はわずか0.5%。

18年目になるが、まだまだ届いていない現状がある。

学校（保育所、幼稚園）の先生に相談した割合は6割近い。中核が学校とつながっていくことは重要。

○「子どもの権利」から考える

1994年に日本は「子どもの権利条約」を批准。

「生きる権利」「育つ権利」「守られる権利」「参加する権利」

☆子どもの権利とは？大人の権利とどう違う？

例えば、不登校や引きこもり。行かないことが悪いのではない。教育を受ける権利、社会から守られる権利が阻害されてはいないだろうか？その視点を持つことが必要。

○多岐にわたる支援、取り組み

児童虐待、多問題家族、療育支援、障がい、生活困窮、社会的養護、刑務所を出所した人への再犯防止・・・

児童相談所との連携、市役所との協働、要保護児童対策地域協議会との取り組みも各地域で開始。定時制高校との連携、取り組みも進んできている。校内に居場所カフェ、福祉が中に入り生徒との相談に当たり、関係を作る。「千葉のWA」（休眠預金活用事業）による「ちば子ども若者アフターケアネットワーク事業」等

○今後に向けて

【中核センターの活動をする上で心がけていること】

- ・断らない。まずは動く。
- ・地域の関係者との関係性を重視する。
- ・迷った時は弱い人の立場に立つ。
- ・結論を急がない。
- ・正解を求めない。

○ 皆さんへのご提案

（中核センターができること）

- ①家族への関り
→貧困、病気…諸問題への関わり
- ②本人への関り
→本人とのお付き合い
- ③地域の社会資源へのつなぎ
→支えるネットワークづくり
...）（困窮者相談・障害福祉・生活保護 e t c
- ④関係者の意見調整のお手伝い
→市町村、児相、事業所、法律家…

★ 子ども・若者によるトークセッション

Aさん 男 大学生

施設での生活は賑やかで楽しかったので退所する時は寂しかった。進学してからは新しく友だちが出来てさみしさは解消。たまに施設に戻ったりしている。奨学金を申請したので経済面は大丈夫だったが余暇のお金をどのくらい使ったらいいか、税金とかどう払えばいいか分からず、生活面では仲いい職員に相談していた。掃除の仕方、ご飯の作り方とか生活的な部分も施設にいる間に身につけられた方が一人暮らし始めるときには楽だなと思う。困ったことが相談できることが大事。施設の職員には子どもたちにとって相談しやすい存在であってほしい。給付金とか金銭面の支援を卒園する前に行ってくれる事業があったら大学が併願できた。

Bさん 女 大学生

一人暮らしする前は頼れる人が身近にいて良かった。どうにかならないこともあるので、事前に調べたり聞いたりして市役所の手続きとかを自分でやるが多かった。就職希望だったが資格を取りたくて大学の情報を自分で調べた。何か言われるかなと思ったけど自分の人生っていうのもあって進路変更した。主に給付型の申請を手伝ってもらって、奨学金をもらえるようになった。学費や奨学金のことも職員に相談してお金の管理をしている。困ったり不安なこと、経済面のことで大丈夫かなとか使いすぎているとか、職員や大学の助言教師に相談したり奨学金の団体の面談の時に話をしたりしている。介護福祉士の資格を取ることが目標で今を過ごしている。これからも職員や自分がかかわっている団体の人たちに一斉に相談する。

Cさん 女 社会人

18歳で卒園してすぐに就職、3年後、国の訓練制度を利用して保育士専門学校に通った。家族が居ないので卒園してすぐに寮で一人暮らし。専門学校は若人支援機構の力をかり会社の寮で一人暮らし。初めての一人暮らしだったので水道料金の支払い方がわからなかった。施設にいるときは受診券で病院に通っていたので0円で直してもらえるところと思っていた。社会に出て、当たり前のことを知らなかった。金銭面、生活面で高校に入る前からやってもいいくらい。生活面に関しては掃除、料理、洗濯はやってきたことだったので不便はなかった。金銭面等で困ったことが何度かあったが必ず自分で考えてから相談する。社会人5年目。自分で考えて行動するのは、1人で生活するうえでは大切かなと思う。

Dさん 男 社会人

いろいろと迷惑をかけた悪ガキだったがいろんな人に助けてもらった。就職して社会人としてやっていき、結婚して子どももでき、家も買って人生として順調な道を通っているのかな。これからは子どものために生きていくという道のに乗れた。18歳で選択肢として就職を選んだ理由として奨学金は借金になる。借金がない状態で働き始めていくのがいいと思って働き始めた。専門や大学にいったなら将来の選択肢が広がったのかなあ。高卒と大卒では年収が違ってくる。就職したときは会社の寮にはいられたが2年後でアパートを借りることになった。保証人が要するという常識や住民税とか大人として当たり前のことを知らなかった。ちょっとしたことは施設の人は忙しいので聞きづらい。自分で調べる力が必要と思う。

Eさん 男 高校生

昼間は自宅、夜間は高校に通っている。小・中は普通の学校。中学校にはエレベーターがなくトイレも狭く、隣町の中学校は設備もあったのでアパートを借りて通った。高校受験ではやりたいことがあり情報処理科のある全日制を受験したが不合格になった。障がい者差別と思った。他の高校も学校の対応が悪く受験を諦めた。2次募集で受けた学校では車いすの人が通っていたので階段昇降機や障がい者トイレは整っていたのに、本校は人権と生命を担保できる設備はないと言われ総合的に判断して不合格と言われた。今、通っている定時制に受かった、障がいに理解のある先生がいるし友達も理解があるが、最初のころは何で自分だけ、夜、友達もなく通っているのか、転学も認められずメンタルも折れそうだ。

Fさんのダンスパフォーマンス



★質疑応答

Q児童養護施設で暮らす現役高校生は施設名を開示しないことが多い。そのメリット、デメリットは？
(施設職員より質問)

Aさん 小学校卒業の3か月目に入所。施設名や保護者の名前を記入する機会もあったが、先生に渡す時も周りで見られないように隠して渡した。名字が違うこと、見られたらなんて思われるだろうか・・・仲の良い子にはさり気なく伝えたりもしたが、それ以外はオープンにしなかった。過去のいろいろなことに対して理解して、とまでは思わないが、親とあまり関わっていないことを知られたくはなかった。住んでいる場所も教えなかった。

Bさん 2～18歳まで施設。中学校までは持ち上がりだから、周りもみんな知っていたし、当たり前前で抵抗なく過ごしたが、高校で1回、いやな思いをした。高校はいろいろな所から集まるわけだが、何かのきっかけで自分のことを良く思っていない子から、あることないことを広げられた。もともと気にしていなかったし、「それが何?」。ただ、自分は絶対その人のことを悪く言わないようにしよう決めていた。自分の心を強くする。逆に、かわいそうな人だな、と。周りの子たちや先生たちが味方してくれていた。聞かれたら話す程度。結局は自分の心次第。あとは、保護者面談。毎回違う職員ではなく、同じ職員に来てほしい、とは思った。

Cさん 施設入所ということで、馬鹿にしてくる人もいた。そのことで喧嘩になったことも。自分たちはアドバンテージが一般の人たちとは違う。学校は集団だから、集団での行動も理解できる。同情されたいわけでも、かわいそうと言われたいわけでもない。逆に開示したことで、信頼できる友達ができるし、糧にもなると思う。

Dさん 自分は結構気にしていた。上手く言語化できなくて、開示したら、友達との関係が気まづくなるかな、と・・・。仲の良い子だけに話していた。今、考えると、施設への理解が足りない。施設にいるからかわいそう、と思われたくない。メリットとしては、なんでも喋れる関係になれる。

まとめ

・**渋沢さん**・・・障がい者の立場でのお話。30年も前から地道に活動されてきた方たちがいて、良いふうになってきているのかな、と思い込んでいたが、良いどころか劣化している?非常にショッキング。風化しているのだろうか。活動を継続していく、思いを継承していくことの必要性を強く感じる。みんな考えていかなければならないことがある、と感じた。

奨学金の話が出ていたが、今なら少し選択肢も変わっていたのかもしれない。こうして声に出してくれているから、制度が以前よりは使いやすく変わっていったのだろう。皆さんの話を聴いて、大人が考えなければならぬことをたくさん教えてもらった。自分たちの活動、取り組みをこれからも見張ってほしい。

★ 参加者感想アンケートの声

- ・登壇された皆さんに改めて教えていただいた。施設内での養育、退所後の生活の中で感じてきたこと、現在の自身の生き方、とても感銘を受けたと同時に、今後考えていくべきことだ
- ・逆境の中でもこれだけ前向きに生きていられるのは施設の今までの支えがよかったからだと思う
- ・子どもと一緒に先々のことを考えながら、話し合いながらのアドバイスや支援が必要だと思う
子どもとの信頼関係を深めることが子どもの不安を和らげる
- ・生活するにあたり、見えていない部分(公共料金の支払い、税金、保険)に対しての支援がみんな足りていないことが印象的だった
- ・事前に給付してくれる支援が欲しいというご意見、もっともだと思う。経済的な下支えがなければ次のステップにすすむことやチャレンジすることが難しい
- ・支援が一般的なものでなく、自立に向かって長く寄り添えるようにしていく必要がある
- ・18歳で自立するための「自立バンク」のような給付制度(お金・住・職)が必要
- ・受験の際に受けた不当な扱い、差別が子どもたちをすごく傷つけている。インクルーシブ教育が名前や形だけでなく、理念として当たり前の考えとして根付く世の中になって欲しい。誰にでも学ぶ権利がある
- ・①何か不満なことがあっても文句を言うだけではなく、こうしたらいいのではないかとする代替案を必ず提案する ②自分がからかわれたり悪いことを言われても、決して同じようにしない ③ポジティブに物事を捉えるようにする等は、私もこれから心がけたい。
- ・助けるだけでなく、困っていることに気づけることや、インケアでSOSが出せるように伝えて行きたい
- ・誰もがどんな状況で育っても、胸を張って生きていく日本、千葉県になるよう自分でもできることをやっていきたい。ダンスがかっこよかった。

☆11月3日、子どもの虐待防止オレンジリボンキャンペーンでオレンジバイクが千葉県内を走りポートタワーがオレンジにライトアップされました。

